

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年2月10日

事業所名 放課後児童デイサービスファミリエ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		基準はクリアしているが、スタッフ人数を含めると狭く感じる。重心部屋を確保し、状況に応じてパーティションで区切るなど工夫している。	活動やその日の利用者、スタッフ人数に応じて常に環境調整を行えるように意識する。
	2 職員の配置数は適切である	○		基準内で配置している。	重心以外、重心、フリーの職員を配置している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		トイレに手すりを設置。車椅子の利用者がいるので、できるだけフラットな状態にしている。座位保持椅子などを準備。	ワンフロア、トイレ一つの環境の中で、必要に応じてより良い環境になるように工夫していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		事業所内で必要に応じて会議を頻回に行っている。議事録の閲覧はsnsなども活用しつつ、発信を工夫している。日々は、その日の利用者、スタッフ人数の情報用紙を基に、話し合っている。	会議は必要に応じて細目に時間を取ると共に、毎日ミーティングする時間を取っており、その際振り返り、当日の確認できるように意識して取り組んでいく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に一回アンケートを実施し、結果を職員間で共有している。改善できそうなことを年間計画に盛りこむなど取り組んで行っている。	避難訓練やマニュアルなど保護者に伝わりづらい部分は、広報誌やブログなどで伝える機会を意識して取り入れていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		当社ホームページにブログ、評価結果を見れるようにしている。	ホームページに、自己評価を公開していることを伝えていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	外部講師や見学者・ボランティアを受け入れており、外部からの意見を聞き、風通しの良い環境を心掛けている。西児連で相互評価を実施し業務改善に取り入れている。	積極的に外部からの評価を行い、風通しの良い環境を作っていき、業務改善に繋げていく。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンライン研修に参加しやすいようにネット環境を整えている。西児連や他事業所等の外部研修に積極的に参加している。	障害特性、対応、虐待など様々な面で知識を得て、現場に活かせるように研修に積極的に参加する。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		本人中心会議、懇談等で、情報を抽出し分析している。また、事業所の特性(外部講師)も含めて、計画を作成している。	毎年アセスメントを行い、事業所としての役割を踏まえて個々に沿った計画を作成していく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		必要に応じて、今までの検査結果を保護者より頂いている。心理士の発達検査などを会社として構築していく。	頂いた発達検査は活用しつつ、心理士の発達検査などを会社としてシステムを構築していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		各療育内容を担当で行い立案・作成し、療育主任等が確認している。その後、会議等で共有、話し合いをしている。	今後も継続してチームで考案し、意見を出し合っていき協同していく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		固定したプログラム(外部講師)はあるが、他にも各担当で決めた療育内容を取り入れている。	プログラムが固定しないように、様々な視点運動、微細、社会性等で療育内容を立案できるようにしていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		事業所の特徴を活かし目的に応じて、小集団活動、集団活動と取り入れている。	個別・集団活動それぞれの強みを活かして意識して計画を作成する。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々にあったデイでの役割を計画(コミュニケーション、ADL等)に盛り込んで作成している。	個々の目標があっているかモニタリングをしながらか適宜組み合わせる。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前のミーティングで流れの確認と役割、気をつけること等を視覚的に書面化した上で共有し話し合っている。	今後も意識して、送迎などでミーティングに参加出来なかったスタッフにも分かりやすいように、書面化し引継ぎできるようにしていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		送迎の為、その日の振り返りをするのは難しいが、特記事項等があれば、その日にSNS等を活用しスタッフに共有出来るように意識して取り組んでいる。	振り返りがその日にするのは難しいが、ミーティングや会議等から全スタッフに情報の共有出来るように意識して取り組んでいく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別支援計画の目標についての振り返り、気になることがあれば会議やミーティングで検証・改善に取り組んでいる。	記録がどこで必要なのか等の意味を知ると共に、必要な情報を一人一人のスタッフが残せるように伝えていく。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリング(約6か月に一度)や懇談を通じて、計画の見直しを判断している。	モニタリングの必要性をケース会議や作成時にスタッフに伝えつつ、今の計画があっているか判断出来るようにチームで取り組んでいく。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○		ガイドラインに沿った活動を心掛けているが、今年はコロナ対策の為自粛していることが多い。	ガイドラインをしっかり読むこと。様々な活動に意図があることを知っていく。
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達管理者、看護師等が参加している。	原則、児童発達責任者、主任等の精通した者が参加している。	

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校との情報共有・連絡調整は必要に応じて保護者・学校と協同している。	保護者を通じて学校と話し合いを持ち、協同して利用者が安全に送迎できる体制を作る必要がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	原則利用開始前に、主治医から医療情報提供書を頂いている。	保護者と確認をしているが、直接的なやりとりは難しい為、事前情報を頂くようにしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	利用開始前に、他機関との連携を行っており、協力体制のある機関とは見学、電話等で情報を頂いている。	協力が難しい機関とは、利用者の情報が適切に共有できるように、できる範囲から必要性を伝えていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	本人中心会議等で、卒業後の事業所と利用者の情報を引き継いでいる。	スムーズに就労移行できるように、今後も継続して取り組んでいく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	西児連や他事業所等の外部研修は今年は、リモートで積極的に参加し、助言を受けている。	専門機関等、他事業所と連携をするなかで、スタッフの知識の向上、支援の質が上がるように積極的にいく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	外部講師が主催するダンス発表会で地域の人と参加している。(今年は、コロナ感染対策の為、自粛)	公園などに行く際、障がいのない子どもと場の共有をしているが、事業所の目標としてどこまでの交流が必要か検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	参加するように努めている。(今年はコロナ渦の為、参加が難しかった)	参加できるように、情報を得ていくように努める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	日頃から送迎時や本人中心会議、連絡帳、sns等で共通理解が得れるように努めている。又、必要に応じて電話での対応をしている。	今年は、コロナ感染対策で懇談が出来なかったが、左記でのやりとりを通じて、共通理解ができるように今後も心掛ける。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	保護者向けに外部から講師を招き、研修会を行っている。(今年は自粛している。)	今年はコロナ感染対策で勉強会が開催できなかったが、ペアトレなどは事業所で実施していることを呼び掛けていくことが必要である。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に、書面を用いて丁寧に説明するように心掛けて行っている。	保護者の方が理解しやすいように、書面を用いて丁寧に説明するように努める。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	悩み、相談事等の希望があれば保護者の伝えやすい連絡方法を通じて、相談・助言等の細目なやりとりを心掛けて行っている。	細目に話をする中で、保護者の方が気軽に話せる環境作りをすると共に、必要な助言、対応ができるようにしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	事業所独自でオープンデイや参観等を開催していたが今年はコロナ感染対策の為実施せず。	保護者同士が交流できる環境を今後も検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	重要事項にも苦情窓口は記載しており、案件があれば個々に応じて迅速に対応している。	懇切丁寧に説明、対応をし、早期解決に努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	ブログ等で活動の様子を発信している。また、長期の行事予定等は会報等で配布している。	細目にブログ等で情報を発信していることを多くの保護者に伝えることが必要である。
	35	個人情報に十分注意している	○	個人情報には鍵付の棚に保管している。また、保護者から個人情報の取扱いについて同意書を頂いている。	個人情報の取扱いについては、十分に留意すると共に、コンプライアンスの研修に参加する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	子どもには、個々にあったツール(視覚支援、マカトン等)を活用している。保護者の場合は第三者の立ち会い等をお願いし配慮している。	個々に合わせて適切な支援が出来るように、今後も細かな配慮を心掛ける。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	現在はコロナ感染対策の為自粛している。	社会経験になる内容は、出来るだけ地域行事に参加していきたい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	各マニュアルを策定し、ファイルにまとめすぐ閲覧出来る環境にしている。保護者には契約時に重要事項で記載している事を伝えている。	保護者には、ホームページなどに掲載するなど、マニュアルがあることをアナウンスしていく。スタッフには、マニュアルを閲覧すると共に、研修などを通じて、意識を高める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	定期的に、地震、津波、災害等の避難訓練等を年間で計画して行っている。	様々なケースを考えて避難訓練をし、その後スタッフ間で振り返りをし必要な情報を更新していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	虐待防止の研修(今回はリモート)に参加し、スタッフ間で会議等を通じて話し合い、共有している。	虐待防止研修に多くのスタッフが参加すると共に、対応について話し合う機会を設ける。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	現在、身体拘束を行ったケースがない。	身体拘束を行う場合の同意書、説明等を今後必要があれば検討していく。

42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	医師の情報提供を保護者から聞き取り、利用開始前にスタッフ間で共有しアレルギーのリスト化をしている。	保護者からの情報を細目に得るようにする。主治医との連携などは、構築していく必要がある。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ファイルを作成し、その日のミーティング、会議などでスタッフ間で共有している。	ヒヤリハットへの意識をスタッフ間で高める。事故を未然に防ぐことができるように、ヒヤリハットの分析や再発防止について話し合いを行う。